


2025 年度 研究サマリー

研究会名称	東京腎臓病対策研究会	
代表者所属	東京女子医科大学	
代表者氏名	星野 純一	
研究方法・結果	<p>本年は、昨年度に新たに構築した多施設研究基盤を整備・維持し、発展させることを目的に活動を行った。</p> <p>昨年立ち上げた多施設合同の web 病理検討会は、毎回 10 施設以上から 40 名以上の参加者がある検討会に成長しており、本年も継続的に開催した。</p> <p>また、定期研究報告会の開催とともに新たな計画として、招待講師を招いた講演会を企画し、今後の具体的な研究計画立案に有益な知識の研鑽を行った。</p> <p>本年度は、多発性嚢胞腎コホートを用いて、腎機能悪化因子の検討および脳動脈瘤の早期発症に関連する因子の検討を行い、学会発表および論文発表を行った。</p> <p>ADPKD 患者は国内第 4 位の透析導入原疾患であるが、未だに他疾患に比べて CKD 進行期における eGFR decline が速いこと、および腎機能低下しやすい患者群として、巨大化した腎嚢胞よりも CKD stage および年齢、蛋白尿の影響が大きい可能性が示唆された。</p> <p>また、新たに腎臓リハビリテーションに関する臨床研究も開始した。</p> <p>本研究はアメリカ腎臓学会で発表するとともに現在論文投稿中である。</p>	
研究成果（論文、学会発表、雑誌掲載等）	<ol style="list-style-type: none"> 1. Kataoka H, Manabe S, Hoshino J. Middle cerebral artery aneurysms in older women with autosomal dominant polycystic kidney disease. <i>Nephrol Dial Transplant</i>. 2025 Oct 30;40(11):2118-2130. 2. Nitta K, Kataoka H, Hoshino J. Association of hyperphosphatemia with renal prognosis in patients with autosomal dominant polycystic kidney disease. <i>Clin Exp Nephrol</i>. 2025 Jan;29(1):75-82. 	